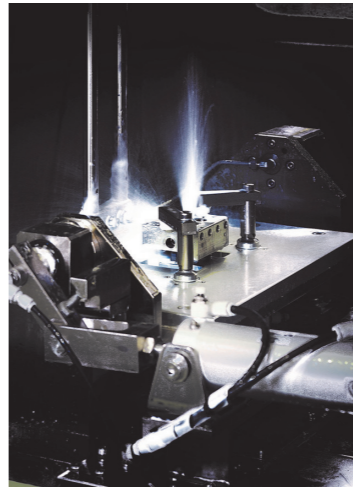


モノ作りで未来を創る

(株)管製作所(管信良志代表取締役社長)。創業40年の今年5月に業務拡張により工場・事務所を新築移転し、9月にはロボット洗浄機を開発し国内外で販売を開始した。製品は「K」のロゴマークが付いた完成品。全国初のコンピュータ内蔵の高圧洗浄機シリーズを主力に、長年蓄積した技術で、モノ作りの未来を創り続ける山形発のメーカーを紹介する。



国内外に販売されている高圧洗浄機(写真上)と、最新鋭の設備が整えられた新工場(写真左)

1992(平成4)年の発売以来、国内外で高圧洗浄機が高い評価を受けています。開発製造に取り組みきっかけは。

管社長 モノ作りの現場にマシニングセンタ―が出始めたことです。私どもは創業以来、自動車部品等の専用工作機械の設計・製作を手掛けて、順調に売上を伸ばしてきました。ところが、マシニングセンタ―はコンピュータ制御によって、工具を自動交換しながら、金属の切断・切削といった複合的な精密加工を、たった1台で可能としました。私どもは、部品ごとに対応する専用工作機械に代わる新たな自社製品開発を迫られたのです。

ときを同じくして、オゾン層を破壊し、地球温暖化を引き起こす化学物質液体フロンの使用が規制されました。液体フロンは電子部品等のゴミや切り粉といった不純物を除去する洗浄剤として使われていたため、洗浄機メーカーは水を使った製品へと方向転換していました。

「ピンチはチャンス」と言われますが、私どもは、ここを「将来発展への好機」ととらえて洗浄機の開発に乗り出したのです。とはいえ、洗浄機メーカーは大小合わせて全国に400社

「付加価値の高い独自の製品で参入」と考えたときにヒントを得たのが、マシニングセンタ―の存在(機能)でした。従来の洗浄機は洗浄する部品が変わるごとに専用の機器を交換しなければなりません。車を例にとれば、2、3年ごとにエンジンやミッション等マイナーチェンジがあります。その都度新たな部品が車に使用され、併せて洗浄機も改造、もしくは購入しなければならず、1台数百万の出費です。「マシニングセンタ―のように、洗浄機に汎用性を持たすことができれば」との発想の下、洗浄機にコンピュータを内蔵し、プログラムを入力することで、様々な部品にピンポイントで水を噴射することができる洗浄機の開発に全国で初めて成功しました。

「元々はマシン業界で機械の設計を担当していたということですが。」

管社長 1965(昭和40)年、県立山形工業高校機械科を卒業して、地元のマシン製造会社に就職しました。最盛期には蛇の目、リッカーといった大手ブランドからのOEM(受託生産)メーカーとして、月産4、5万台ものマシンを製造していました。そこで私は効率的な作業を図るため、専用の加工工作機械の設計に従事しておりました。

あの当時の宮町、銅町、鍛冶町は一大マシン産地で、界限は小ささまざまな町工場があり、それは賑やかなものでした。設計図を手に入場を歩き来ましたが、額に汗しながら、旋盤やボール盤に向かって職人さんたちの姿が目には焼き付いています。

しかし、2度にわたるオイルショックなど

ほど存在します。後発の私どもが、同じことをやって参入する余地はありません。進出したとしてもコスト競争に巻き込まれてしまいます。



管社長(前列中央)と確かな技術力を誇るモノ作り集団

で、大手メーカーが生産拠点を海外に移しました。嫁入り道具の1つであった家庭用マシンの需要が減少したこともあり、2、3年で一気に受注ゼロという深刻な状況に陥ります。こうした背景と「自分たちで思うような機械を作りたい」という気持ちから、一緒に働いていた先輩2人と独立し、山辺町で自動車部品専用の加工工作機械の設計開発を始めました。

山形県内陸部のモノ作りは高い評価を受けています。多くの企業が戦後の復興、高度成長時代において、何らかの形でマシン製造に携わったことが、今日の発展につながっていると私は考えています。その理由は、主な輸出先であったアメリカの品質管理の厳しさです。技術力のもとより、品質管理の徹底が不可欠であり、そのことによって、多くの企業がスムーズに自動車部品等の製造へ移行することができたのだと思います。

「モノ作りの未来を創る」を掲げています。今後の抱負を。

管社長 創業以来、一貫してモノ作りに励んで来ました。洗浄機は管製作所の頭文字「K」を付けてシリーズ化しています。おかげさまで、ここ数年で販売台数は飛躍的な伸びを見せ、多くのユーザーから高い評価を受けています。国外では中国での需要が急増、今後ますます伸びていくものと確信しています。

今は30代の若手が開発に取り組んでいます。「私たちは一生産技術要員であるということをお忘れずに、ユーザーの期待に応える機械の開発を目指そう」という創業の理念を、彼らに伝えていきたいと思っています。

(株)管製作所

創業 1977(昭和52)年11月3日
代表取締役社長 管信良志
資本金 約2億4千8百万円
本社・工場 天童市荒谷堂ノ前1000番28
☎023・655・6100